

◆授業設計のポイント◆

- ・ 生徒が図説することで思考を構造化できる手立ての工夫
- ・ 生徒が多面的・多角的に考え、学び合えるテーマ設定の工夫
- ・ 問題解決的な学習における課題の設定と学びを実践につなげるための工夫

## 技術・家庭科学習指導案

場 所 家庭科室本館（1年校舎2階）  
学 級 2年2組（男子23名女子17名計40名）  
授業者 教 諭 精 松 真 由

### 1 題材

- C 消費生活・環境      2 金銭の管理と購入「購入方法と支払い方法」  
（技術分野「情報通信ネットワークの危険性」と関連付けて）

### 2 題材について

近年、科学や流通の発達により、私たちは生活に必要な物資やサービスを簡単に購入することができ、便利で快適な生活を送ることができている。その反面、値段や便利さが商品選択や購入方法の選択の主となり、その消費活動の背景についての考えは希薄となってしまうがちである。そのため、安易な消費活動によるトラブルや環境問題は後をたたない。

「身近な消費生活と環境」では、物資やサービスの選択に必要な条件や購入方法、支払い方法など、購入に必要な内容を学習する。また、購入後のアフターサービス、消費生活におけるトラブルの解決方法、消費活動がもたらす環境への影響なども学ぶ。消費活動に関する学習内容は、表面に見えない複雑さや難しさがあるが、個人が消費者として義務や責任を理解して、主体的に社会と関わっていくためには重要な学習である。

生徒は、毎日の生活の中で学用品や食品などの商品を自分で選択して購入するだけでなく、趣味や部活動に関わる比較的高額な商品の選択を経験している生徒も多い。また、校区内に店舗が多いだけでなく近隣に繁華街があることから、生徒だけで物資を購入する経験は多い。しかし、自分たちの消費活動が社会や環境に与える影響を考えるなど、ひとりの消費者であることへの自覚は高いとは言えない。また、店舗販売だけでなく、インターネットなどによる無店舗販売も身近となり、それぞれの販売方法の良さや危険性などを知ることは必須であると考え。

そこで、指導にあたっては、これまでの消費生活を振り返らせ、普段重要視している価格や便利さ以外の視点に注目させて学習させることにより、生徒自身が思考の広がりを感じながら学習できるようにしたい。また、物資やサービスの選択・購入・利用・処分についての基礎的・基本的な知識を習得させた後にベン図で多面的に考えて場面に応じた最適解を追究させる活動を通して、生徒が思考を構造化し、根拠をもって判断や説明をすることができるようにする。その際、グループ活動を通して他者の意見を聞くことで、考え方の幅を広げさせたい。また、既習事項や技術分野「情報通信ネットワークの危険性」の学習内容と関連付けることで、学習したことを他の学習や生活につなげようとする意識を高めたい。さらに、消費者としての責任や環境への影響などに配慮して商品や購入方法の選択ができるようにし、今後の社会の変化に対応し得る判断力と実践力を身に付けさせたい。

### 3 題材の目標

- C 消費生活・環境      2 金銭の管理と購入
- (1) 計画的な金銭管理の必要性について理解し、売買契約の仕組みや消費者被害の背景とその対応、購入方法や支払い方法の特徴に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
  - (2) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について工夫することができる。
  - (3) 金銭の管理と購入について課題をもつことができる。

#### 4 指導計画

##### C 消費生活・環境

(全9時間) ※本時は太字

学習内容	配時	学 習 活 動
家庭生活と消費		
・ 消費生活のしくみ	1	・ 日用品を例にして生産、販売・提供、消費、廃棄・再利用のサイクルを図で表すことで、中学生も消費者である自覚をもつ。
商品の選択と購入		
・ 商品購入のプロセス	4 本時 (4/4)	・ 商品購入時の失敗を振り返ることで、商品購入の際に必要なプロセスを理解する。
・ 生活情報の活用		・ 買う側の知りたい情報と、売る側から与えられる情報を比較し、情報収集や活用のしかたを理解する。
・ 販売方法と支払い方法		・ 購入方法と支払い方法の種類を知る。
		・ <b>目的や場面に応じた商品の購入について考える。(本時)</b>
よりよい消費生活のために		
・ 契約と消費者生活のトラブル ・ 消費者を支えるしくみ	2	・ 契約について理解し、事例を通して消費生活におけるトラブルの予防方法や対処方法を考える。 ・ 消費生活を支える法律・制度・機関の必要性を理解する。
・ 消費者の権利と責任		・ 事例を通して基本的な消費者の権利と責任について理解する。
環境に配慮した生活		
・ 自ら取り組むエコ生活 ・ 地域や社会での協力	2	・ 生活における環境負荷を理解し、改善のための行動目標を決める。 ・ 地域や社会に中学生として協力できることを考える。
・ 持続可能な社会		・ 資源を節約し、持続可能な社会に必要な生活スタイルについて自分たちや社会がすべきことを話し合う。

#### 5 題材における評価規準 (新学習指導要領の観点) ※ 本時は太字

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・ 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解できる。 ・ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	・ <b>物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫することができる。</b>	
・ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できる。	・ 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫することができる。	
		・ <b>自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践することができる。</b>

6 本時の実際（4 / 4 時間）

(1) 題材 C 消費生活・環境 2 金銭の管理と購入「購入方法と支払い方法」

(2) 目標

ア 販売・購入方法についてベン図とX型マトリックス図を使って、情報を収集・整理することができる。

イ 物資・サービスの選択・購入及び活用について必要な情報を、根拠をもって整理し、その理由を他者に説明することができる。

ウ 購入方法を選択する際の課題に気付き、他者と学び合い、今後の行動目標をもつことができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 生徒が図説することで思考を構造化できる手立ての工夫

**研究の視点1**

- 既習事項や技術分野の「情報通信ネットワークの危険性」についての学習を基に、総合的に判断して靴の購入方法を選択するために、ベン図とX型マトリックス図を使って思考を構造化できるようにする。

イ 生徒が多面的・多角的に考え、学び合えるテーマ設定の工夫

**研究の視点2**

- 既習事項や技術分野「情報通信ネットワークの危険性」を振り返らせ、これまで重要視してこなかった「安心」の視点を加えることにより、購入方法を選択する際に、多面的・多角的に考え、総合的に判断して最適解を追究することができるようにする。
- 購入方法をベン図とX型マトリックス図で分析する際に、分析の根拠と併せてマイナス面を改善するための方法も考えさせることで、その購入方法で購入する時の注意点や工夫をまとめられるようにする。

ウ 問題解決的な学習における課題の設定と学びを実践につなげるための工夫

**研究の視点3**

- 本時の導入で中学生の消費者トラブルの現状を知らせることで、購入方法を選択する際の課題に気付かせて学習の必要性を感じて学習課題を設定することができるようにする。
- 学習後に購入方法について具体的な行動目標を立てさせることで、実践につなげやすくする。また、その際は、靴だけでなく生鮮食品等の物資の特徴が違う場合や購入者が高齢者であるなど購入する側の違いで最適解や対策が変わってくることに気付かせる。

(4) 展開

過程	主な学習活動	時間/形態	指導上の留意点	教具等
導   入	1 前時までの学習を振り返る。	7分 一斉 (2)	1 板書を使って前時までに学習した商品購入のプロセスを振り返らせることで、既習事項や本時の学習内容を確認できるようにする。	前時の板書・ワークシート  消費者トラブルデータ (画面提示)
	2 購入方法の選択が重要であることに気付く。	一斉 (3)	2 鹿児島県中学生の消費者トラブルの状況を知らせ、便利だけでなく安心でよりよい購入方法を学習しなければならない自覚を高めて学習課題を設定できるようにする。 <b>研究の視点3</b>	
	<b>気付き</b> P1：ネット通販って便利だと思っていただけ、トラブルに巻き込まれるのは嫌だな。 P2：カタログで買い物をしたことはあるけれど、細かい説明は読んだことないな。 P3：やってみたくいけどどうすれば購入できるか分からない購入方法がある。			
	3 本時の学習課題を設定する。	一斉 (3)	3 本時の学習の流れを知らせ、学習の見通しをもたせることで、終末でよりよい選択の行動目標をもてるようになるうという意欲を高める。	
	今までより上手に購入方法を選べるようになるにはどのような工夫が必要だろうか。		今まであまり考えていなかったけど、よく考えて今までより上手に購入方法を選べるようになったいな。	
展 開	4 前時の視点に新たに「安心」の視点を加えて靴の購入方法の選択について考える。	30分 個 (6)	4 靴の購入方法の選択について、前時の「便利」に、新たに「安心」の視点を加えて多角的に考えられるようにする。その際、ベン図で分析した後にX型マトリックス図を使って考えさせることで考えを構造化しやすくする。また、資料として技術分野の「情報通信ネットワークの危険性」を活用させることで学習のつながりや有用性を感じさせる。 <b>研究の視点1</b>	技術分野教科書「情報通信ネットワークの危険性」

展 開	5 個で考えたことを基にグループで購入方法の選択について分析し直し、分析の根拠を明確にする。	グループ (16)	5 X型マトリックス図のシェアボードを使って、購入方法の最適解をグループで話し合い、意見を述べ合うことで分析の根拠が明確になるようにする。その際、代表者の考えを先に説明させてからグループで話し合わせることにし、他の人が同意や質問などを重ねて発言しやすいようにする。 <b>研究の視点 1・2</b> また、他のグループに移動して質問をしたり、グループに残って質問に返答したりすることも可能にすることで、考え方の幅を広げたり、根拠を確かめたりする。	前時から継続のワークシート シェアボード 「知っとく」
	<b>納得</b> P1：通信販売は便利だけど、靴は試着しないとやっぱり不安だ。 P2：無料で返品できる通信販売があるみたいだから、細かい説明をよく読んだ方がいいな。 P3：直接見て比較しやすいのは店舗販売だ。時間や手間はかかるけれど、お店に行くと店員さんに質問もできるね。			
	6 不安な面を解消できる解決策をグループで話し合う。	グループ (8)	6 解決策を話し合わせることで、購入方法をよりよく選択する際に工夫することや注意点に気付かせる。 <b>研究の視点 2</b>	ワークシート
終 末	7 購入する物や購入者が変わった場合に違う注意点がないか考える。	13分 一斉 (4)	7 生鮮食品を購入する場合や購入者が高齢者である場合など、最適解が変わることに気付かせることで、商品購入時には商品や目的に応じた選択をすることが理解できるようにする。 <b>研究の視点 3</b>	ワークシート シェアボード 黒板 掲示用のボード  消費生活センターの方のお話
	8 本時を振り返り、購入方法を選択する際に大切なことをまとめる。	一斉 (4)	8 変化した考えや解決策をワークシートやシェアボード、掲示用ボードで振り返ることにより、購入方法を選択する際に大切なことについての考えの深まりに気付けるようにする。	
	9 消費生活センターの方のお話を聞く。	一斉 (3)	9 消費生活センターの方のお話を聞くことで社会とのつながりを意識させる。	
	<b>深い学びのゴール</b> 購入方法を選ぶときは・・・ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 購入する商品や使用時期、価格等に応じて購入方法をよく考えて選ぶ。</li> <li>・ インターネットを利用して通信販売で購入するときには情報ネットワークの危険性を考えて、上手に利用する。</li> <li>・ トラブルに巻き込まれたら保護者や関係機関に相談すること、これまでより上手に選択できるようになる。</li> </ul>			
	10 個人の行動目標を記入する。	個 (2)	10 本時の学習を振り返り、これまでの自分と学習後の自分を比較させ、今後の自分の行動をどう変えていくのが分かるように具体的な行動目標を記述させることで、実践に移しやすくする。 <b>研究の視点 3</b>	ワークシート
<b>意志</b> P1：面倒くさがらずに、説明書きなどしっかり読んでから契約しよう。 P2：便利だからといって何でもネットで買おうと思わずに、買う物や目的に合わせてよく考えて購入方法を選ぶようにしよう。 P3：トラブルに巻き込まれるのは嫌だから、他にどんなトラブルや解決方法があるのか調べてみたいな。				